＜株式会社エフエム東京　第 496 回放送番組審議会＞

１．開催年月日：令和 5 年 3 月 7 日（火）

２．開催場所：エフエム東京 11 階大会議室／リモート併用開催

３．委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名　社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル　委員長　　秋　元　康　委員
川 上 未 映 子　委員　　佐 々 木 俊 尚　委員
松　田　紀　子　委員　　山　口　真　由　委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（8 名）

唐島 夏生　代表取締役会長
黒坂 修　代表取締役社長
小川 聡　取締役
内藤 博志　執行役員編成制作局長
延江 浩　編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮野 潤一　編成制作局次長 兼 編成部長
若杉 健太　編成制作局制作部長
藤村 裕紀　制作部プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当　内藤放送番組審議会事務局長】

４．議題：番組試聴　（約 21 分）
『ALL-TIME BEST～LUNCH TIME POWER MUSIC～supported by Ginza Sony Park』
2023 年 2 月 21 日　（火）11：30～13：00　放送のダイジェスト

≪議事内容≫
議題 1:最近の活動について

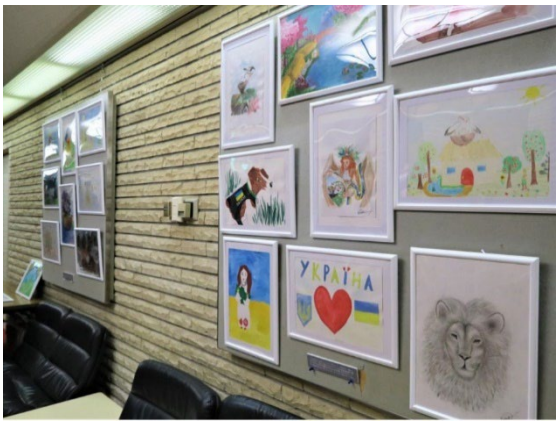
■ウクライナ避難民支援イベント TOKYO FM「FEEL UKRAINE～心の架け橋～」開催

TOKYO FM では、2023 年 2 月 10 日（金）、日本に避難しているウクライナの方々を支援するイベント TOKYO FM「FEEL UKRAINE～心の架け橋～」を TOKYO FM ホールにて開催しました。

ロシアによるウクライナ侵攻が始まってから 1 年となる現在、日本にはウクライナから避難してきた 2000 人を超える方々が生活しています。本イベントは、日本とウクライナ、そして日本に滞在しているウクライナの人同士の交流を目的として企画し、日本ウクライナ友好協会と共に開催しました。ロビーではウクライナから日本に避難してきた子どもたちの絵画展・即売会、ウクライナの菓子や手作り雑貨の販売、ウクライナのお守り制作ワークショップを実施。ホールでは、ウクライナの方々が日本での生活について語るトークショー、ウクライナ人デザイナーと避難民がモデルをつとめたファッションショー、ウクライナ人ダンサーユニット「マリーナ&セサール」によるダンスパフォーマンスを実施。さらに、当日司会をつとめた、TOKYO FM『ALL-TIME BEST～LUNCH TIME POWER MUSIC～supported by Ginza Sony Park』パーソナリティの LOVE、世武裕子、ウクライナ人歌手・バンドゥーラ奏者のナターシャ・グジーによるライブをお届けしました。

本イベントの終了後、当日のチケット収入（入場券 1000 円）と会場内での募金・売上に TOKYO FM からの追加募金を加え、日本ウクライナ友好協会に寄付いたしました。

▲手作り菓子や雑貨の販売



▲ウクライナの子どもたちが描いた絵

▲ファッションショー

▲ダンスパフォーマンス

▲LOVE によるライブ

▲世武裕子によるライブ

▲ナターシャ・グジーによるライブ

議題２：番組試聴

【番組名】

『ALL-TIME BEST～LUNCH TIME POWER MUSIC～supported by Ginza Sony Park』

2023 年 2 月 21 日 （火）11：30～13：00 放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、2 月 21 日（火）に放送した『ALL-TIME BEST～LUNCH TIME POWER MUSIC～supported by Ginza Sony Park』のダイジェストです。

この番組は、ミュージシャンの LOVE がパーソナリティをつとめるランチタイムの選曲番組で、音楽史を掘り起こし、新旧洋邦、ジャンルも時間軸も超えたベストミックスをお届けしています。

今回試聴する放送回では、2023 年 2 月 10 日（金）に開催した、日本に避難しているウクライナの方々を支援するイベント TOKYO FM「FEEL UKRAINE～心の架け橋～」の一部をオンエアしました。イベントの司会をつとめた番組パーソナリティの LOVE が当日の感想を交えながら、LIVE の模様をお届けしました。

また 2 月 20 日（月）からはイベントの模様の動画配信をスタートしました。動画も合わせてご覧ください。（URL はメールに記載）

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側意見）

○とても良い企画。まず、このこと（ウクライナ侵攻のこと）をTOKYO FMとしていつも気にかけているということが一番大切なことだと思った。以前、反戦音楽特集をしていたが、その時も、自分たちがラジオ局として何ができるだろうと。時代に合わせ、今回でいえばウクライナ侵攻であり、ウクライナから避難してきた方々であったり、またある時はヤングケアラーだったりと、その時その時に社会の問題は常にある。ラジオ局として、音楽や自分たちにできることは何だろうかと、自問自答しながら向き合うことは、良いことだと思う。ただ、そういうことをやろうとすると、企画内容が同じになってしまいがちなので、今後どこまで予定調和が崩せるかということは考えた方がいい。というのは、キレイなことを言おうとか、配慮に配慮を重ねて、優等生的な発言と、優等生的な音楽、優等生的な出し物になってしまうので、それでは伝わらないこともあるかもしれない。もしかしたら炎上するかもしれないけれど、例えばアメリカだったら、コメディアンがキツイことを言いながら、笑いの中でウクライナ侵攻はどんな意味を持つとか、祖国とは何かということを、鋭く指摘したかもしれない。これは一例だが、工夫をしていかないと、ほんわかした陽だまりの中で、心地のいいイベントで終わってしまう。

○世の中にはこういうことに問題意識を持っている人と、全く持っていない人がいるので、全く持っていない人を巻き込むにはどうしたらいいか、例えとして相応しくないかもしれないが、例えば学園祭の実行委員。つとめる側は意識が高くて、良い学園祭をやろうとする。そうでない人は学校が休みだという以外何も興味がない。この人たちを学園祭に参加させるにはどうしたらいいのだろうと。今、ウクライナを全く意識していない人に伝えるためにはどうしたらいいのだろう、という視点も必要だと思う。取り組みとしては素晴らしかったし、番組も心地よく聴けた。

○本当に難しいテーマ。シリアスだし、いつ終わるか分からない侵攻、たくさんの犠牲者。そのことを、不特定多数の様々な方が聴くラジオという前提の中で、大多数の日本人から見たら遠くの出来事をどのように伝えるのだろうと。もちろん、いつ自分たちも同じ状況になってもおかしくないという微かな緊張感もある。その中で「架け橋」というテーマでやることは、テンションという意味でも最適解だったように思う。シリアスな討論番組で識者が出てきていろいろな情勢の話をすることも１つの面としては大事だが、生活の中に溶け込んでいる、音楽、ラジオでウクライナを考えていく時に、生活・愛・友情で彼らを思うと。私は、この番組を聴いていて、ストレートに感動した。ウクライナを想いながら、そこに生きる個別の人生を想う作りになっていて。大きなことはできないが、日常という、明日とか今日の中で、どういう風に自分が生きて行けばいいのかというところに触れたような。これはこれで１つの達成感があったのではないか。ただ、他の委員が言っていたように、誰も怒らない、誰でも心地よく聴けるというのは、この番組では良かったと思うが、次に何かをやる時は、別のアプローチもあると思う。

○パーソナリティの LOVE 氏は、今回この番組を担当するにあたって、自信を持っていたと思う。このような番組に臨むとき、普通はすごく怖いし、間違えてはいけない、何か違うことを言ってはいけないという緊張感があると思うが、それを全く感じさせず本当に素晴らしく、自信があった。「わたしにできることはこれだ」ということが伝わって来た。個人的にはそこがすごく良かった。「これが始まりですよ」「これで十分じゃないですよ」ということも何度も繰り返していて。今できるベストは、それぞれの中で希望を見つけていくことなのでは、ということが語り手によってこんなにも伝わるということを感じた。

○非常に良いイベント。やらないよりはやった方が断然いい。間違いなくそれだけは言える。今回のウクライナ侵攻は、一体我々に何を突き付けているのかというと、戦争というものをどう捉えるかという根源的なものかと思う。LOVE 氏が最後の方で「避難民の方に思いを寄せて、ウクライナに何ができるのかを考えることは、戦争と政治と武器産業とは全く真逆の生活と愛と友情とか、そういうものを育ててくれるはず」だと。おっしゃる通りだと思う。しかしその一方で、昨年末のウクライナでの世論調査の数字を見ると、現状のロシアが東部を占領している状態で停戦を求めてもいい、停戦してもいいという人はわずか 1%。93%の人は、クリミアも含めるウクライナ全土からのロシア軍の撤退を求めている。つまり、徹底抗戦することがウクライナの人々の意思となる。ウクライナの人々を支援することは、戦争を続けることになり、国内でも、それは良くない、戦争はダメだという意見も根強くあり、意見のズレが生じてしまっているということがある。簡単にどうこう言える問題ではないと思わされる。

○以前、TOKYO FM が制作した村上春樹氏の「戦争をやめさせるための音楽」という番組があったが、あの番組の素晴らしさは、戦争がどうだとか一言も言っていないこと。言葉にせずとも、みなさんがそれぞれ感じ取ってくださいね、と。視聴者側に委ねたというか、正論を振りかざすでもなく、自分はこうだという考えをリスナーが一緒の温度感で聴くことができたことは素晴らしい。そういう意味でいうと、今回の番組は、もう少し聴いている側に委ねるというか、自身の頭で考えるバッファがあった方が、TOKYO FM らしい番組になったのではないかと思う。

○LOVE 氏の距離感が良かった。私もこの手の内容に気後れするというか、避難民に寄せるある種の偽善的な感じというか、どこかに漂う優越感に気恥ずかしさを感じてしまうが、LOVE 氏にはそういうものが全くなく、何のてらいもなく、愛や友情という言葉を言えてしまうキャラクターが確固としてあり、その距離感が絶妙に良く、私のような感覚でも聴きやすい番組だった。

○他の委員とは少し意見がズレるが、このイベントはあえて戦争に焦点を当てなかったのだろうと思う。そしてそこが良かったと感じた。戦争に焦点を当てている番組は多く、テレビでも、ずっとウクライナの「戦争」の話をしている。大上段から振りかぶったものなので、視聴者側はやや他人ごとに聴こえてしまう。このイベント・番組は、ウクライナに文化があ

って、刺繍があって、人々が暮らしていてという、ひとりひとりのリアリティに焦点を当てたことが成功だったと思う。こんな美しい刺繍を、文化を持ちプライドを持って生きている人々の何かを奪うのが戦争なのかと、逆にリアルに感じられた。

〇ファッションショーなど、視覚で見たほうが良い部分が多くあったが、YouTube の再生回数が先月の安部礼司よりもずっと少ないのが気になった。ダイジェスト版なので、丸ごと配信した安部礼司とは違うかもしれないが、もったいない。

■委員のみなさまから、心ある冷静でよいご指摘を頂いた。

■このイベントの立ち上げに LOVE 氏の存在は欠かせず、一緒に話し合いながら進めてきた。またもう 1 人、日本ウクライナ友好協会のオクサーナ氏と出会ったこともキッカケで、日本に避難してきている方について伺っていたので、何か交流の場を、そしてそれを知る、考える入口になればということを意識して作った。また、今後、何か番組として実施することがあれば、今回のアドバイスを参考に考えていきたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。
① 放送:番組「ドライバーズインフォ」
3 月 25 日（土）5:55～6:00 放送
② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 https://www.tfm.co.jp/